一般質問　一般質問は、質問と答弁がかみ合うことで分かりやすく充実した議論となるよう、原則としてあらかじめ通告しておくこととなっています。

田中大秀の顕彰について

新政たかやま
西田　稔

問 **田中大秀の顕彰会設立へ向けて長期目標を立て、定期的な顕彰イベントを開催し、歴史文化資源として知名度を上げていくという方向性を考えているが市の見解は**

答 歴史文化資源を活用する取組を計画的に行っていくことや、顕彰会などを組織して継続性を持って活動することは、有効な方法であると考えている。市としても偉人の顕彰に関する事業への協力や関連のある各種団体との連携の橋渡しなどを行っていきたいと考えている。

田中大秀 座像　荏野文庫

飛騨酪農農業協同組合の解散による影響について

みんなで未来をつくる会
丸山純平

問 **飛騨酪農農業協同組合の解散が決定する過程で、市にはどのような相談・報告があり、どのような支援策を検討したのか**

答 市ではこれまで、飛騨酪農農業協同組合経営対策協議会を組織して、酪農家や飛騨牛乳ブランドを守ることを掲げて、経営改善に取り組んできた。また、粗飼料価格高騰対策事業や優良乳用牛保留・導入事業などで酪農家の支援に取り組んできた。飛騨酪農農業協同組合に対しては、飛騨牛乳の消費推進のためのキャンペーンやPRの協力、組合存続に向けた相談を受けた際には関係機関に働きかけるなど寄り添った対応をしてきた。令和３年度から５年度にかけて黒字化を達成したものの、抜本的な解決には至らなかった。

ひきこもりの継続支援について

みんなで未来をつくる会
益田大輔

問 **2023年の内閣府の発表によると、生産年齢人口の2%、約146万人がひきこもり状態にあるという。ひきこもりは短期間で解決できないため、継続的な伴走支援が可能な発展的支援体制（ひきこもりサポート事業、支援ステーション、地域支援センター）が必要だが市の見解は**

答 今年１月の国のひきこもり支援ハンドブックにおいても、伴走支援が重要との指摘がある。相談者に寄り添った支援を行うために、実態把握の対応も含め、ひきこもり地域支援センター事業や、ひきこもり支援ステーション事業の実施を検討したい。

バリアフリーの検証

高山市議会公明党
中筬博之

問 **電動車椅子やシルバーカーの利用者が増える中、せめて市役所や支所、駅周辺などの主要施設や、福祉関係施設の周辺くらいは、安全に走行できるようハード・ソフト両面にわたる配慮を徹底すべきでは**

答 バリアフリーについて、これまでに３３路線、約１９kmの整備に取り組んできたが、時間の経過とともに舗装の劣化や側溝蓋・グレーチングの損傷で段差が生じている路線があることは認識している。車椅子やシルバーカーを利用する方からのご意見や提案もお聞きし、出来る所から道路修繕に取り組む。